

第 38 回日本義肢装具学会学術大会に参加して

竹下 直樹

公益財団法人鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター

1. はじめに

新潟県新潟市朱鷺メッセにて 2022 年 10 月 8 日～10 月 9 日に開催された第 38 回日本義肢装具学会学術大会に参加した為、報告する。

2. 第 38 回日本義肢装具学会学術大会

本学術大会のテーマは、「義肢・装具、支援機器のエビデンス構築へ向けて」であり、背景として、科学的根拠に基づいた医療 Evidence Based Medicine が提唱されて久しいなか、義肢・装具をはじめとする支援機器の効果を示す根拠 evidence が十分ではない状況にあることが挙げられ、義肢・装具、支援機器を共通項とした多職種の集団である本学会を通して、アウトカム評価からエビデンスの構築に至るまで、現状の把握と今後の発展に必要な具体的策について検討する目的で行われた。

プログラムは、特別講演 1 題、共催特別講演 1 題、教育講演 5 題、共催セミナー 5 題、海外招待講演 5 題、シンポジウム 36 題に加え、一般演題 83 題、ポスター演題 24 題、学生優秀演題 6 題であった。

教育講演 1 では山本澄子先生（国際医療福祉大学大学院）をはじめ、義肢装具の歩行分析のスペシャリストが招かれ、臨床に役立つ歩行分析の基礎知識について、教育公演 2、共催特別公演は日本靴医学会との合同セッションとして行われ、こどもの足と靴の選択、症候性足部変形と装具、靴治療について講演があった。

海外招待講演は一部が ISPO 日本支部との合同セッションとして行われ、Marlo Ortiz 先生（Ortiz

International S.A. de C.V. Mexico）を始めとした義肢・装具、フットケアの分野から国際的に著名な 5 名の海外招待者の講演があった。

シンポジウムではフットケア、糖尿病、切断、義足、下肢装具、靴、ウェアラブルデバイス、車椅子、シーティング、義手、3D 技術など幅広いテーマが取り上げられ、特にシンポジウム 1 は近年義肢・装具の分野でも需要が高まる糖尿病足病変のフットケアとエビデンスについて、日本フットケア・足病医学会合同セッションとして行われた。

企業展示では、義肢装具用 3D-CAD/CAM やロボット技術を活用した膝継手、3D プリント装具などの最新機器や、周径、深さが調整可能な大腿義足ソケットシステム（図 1）など、本分野の技術革新を感じさせられる展示があった。

本大会は対面だけでなくオンラインによる参加形式も取られ、演者が遠方から web カメラで発表する姿が印象的であった。また、会場に来られなかった方や、セッションが重なってしまい聴けなかった演題も後日オンデマンド配信でチェックできるのは非常にありがたく、今後も継続が望まれる所であった。

一昨年より続くコロナ禍により久しぶりの対面参加となった学術大会であったが、対面だからこそ伝えられることを再認識するとともに、オンラインならではの利便性も感じることであった。



図 1 ottobock 社 Varos ソケット

公益財団法人鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター
〒116-0003 東京都荒川区南千住 4-3-3